

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	後田美沙
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 中華人民共和国による対外援助（1949—1971）：アフリカ諸国への援助を中心に			
論文審査担当者			
主査	教授 水羽信男		印
審査委員	教授 丸田孝志		印
審査委員	教授 青木利夫		印
審査委員			印
〔論文審査の要旨〕			
<p>後田氏の論文は、今日の中国が国際政治の場で、重要なパートナーと位置付けているアフリカ諸国との繋がり形成過程を、1949年の中華人民共和国の成立直後から、1971年の国連代表権獲得までの対外援助政策の展開のなかに位置付けて論じている。それは次の6つの章で構成された。序章、「援助国」中華人民共和国の誕生前夜」、第2章「中国政府によるアフリカへの関係の始まり—エジプトを事例として」、第3章「アフリカ諸国への対外援助の拡大—周恩来のアフリカ歴訪による成果」、第4章「アフリカ諸国への対外援助と国連における“中国”代表権問題」、終章。</p> <p>後田氏は中国政府の外交文書が公開されていないという困難な状況のなかで、研究テーマに即して、台湾での研究を含む中国語文献を収集し、さらには米国CIAの調査を含む英語文献や日本の外務省の調査記録なども網羅した。そのうえで、英語圏、日本、台湾、中国における多くの先行研究の精読に基づき、アフリカ支援が始まる前に行われた北朝鮮、ベトナム、モンゴル、アルバニアへの支援を対アフリカ援助の前史と位置付け、それを踏まえてエジプトから始まるアフリカ支援について、米国、ソ連、中華民国の外交政策とも関連させつつ、エジプトのほかアルジェリア、ギニア、マリ、タンザニア、ダホメを取り上げて個々の事例を詳細に検討した。とくに、1964年の対外援助の基本方針の発表の意義を改めて論じ、中国外交史研究に新たな知見を加えた。また1971年の国連代表権問題に際してのアフリカ諸国や台湾側の動静を検討し、これまで十分に論じられてこなかった中国政府の外交的手段としての対外援助の特徴などについて明らかにした。この点も本論文の優れた成果である。</p> <p>後田論文については、アフリカ側の対応についてのさらなる検討により、その研究意義が高まること、さらには先行研究に対してさらに明確に自身のオリジナリティを主張すべきことなどが今後の課題とされた。また後田氏の作成した詳細な図表の内容や、中国語資料の読解について質した。その結果、後田氏自身がこれらの点について十分に理解していることを確認した。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			
備考 要旨は、1、500字以内とする。			